

# 勤務環境調査結果について (医療機関調査票)

徳島大学大学院医歯薬学研究部  
公衆衛生学分野  
森岡 久尚

# **結果報告**

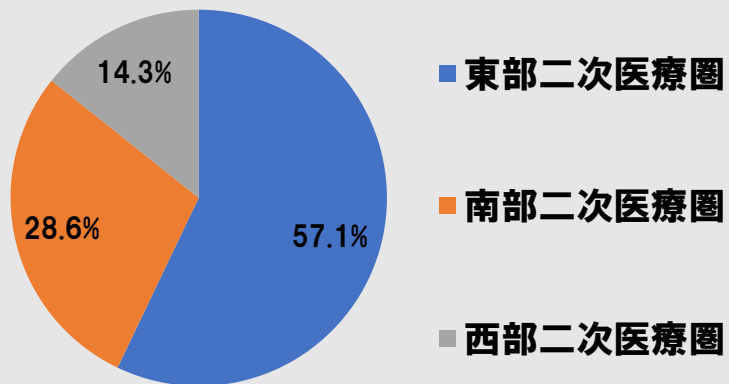
## **(医療機関調査票)**

**期間:令和3年10月から12月まで**

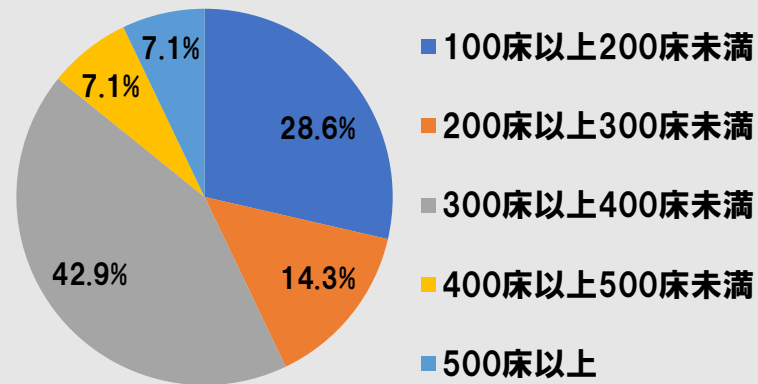
**解析症例数:14医療機関(病院)**  
**(回答率100%)**

# 解析症例の基本的情報

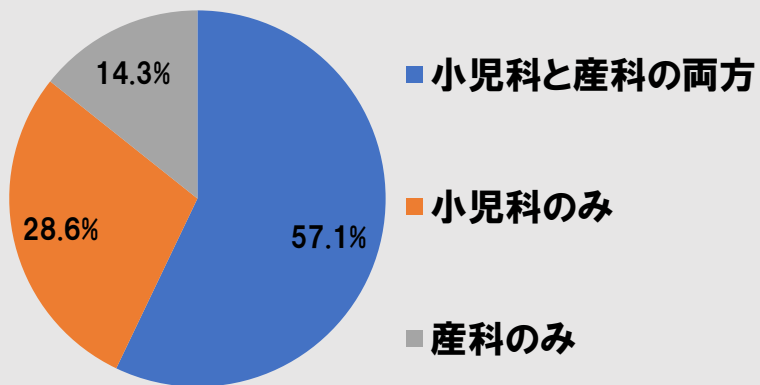
## 二次医療圏域(N=14)



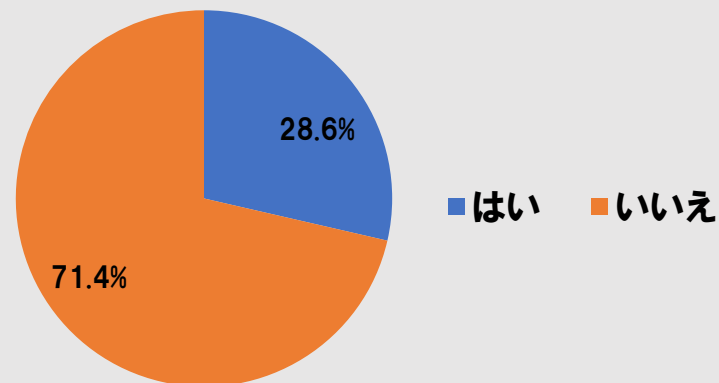
## 病床規模(N=14)



## 常勤医の存在(N=14)



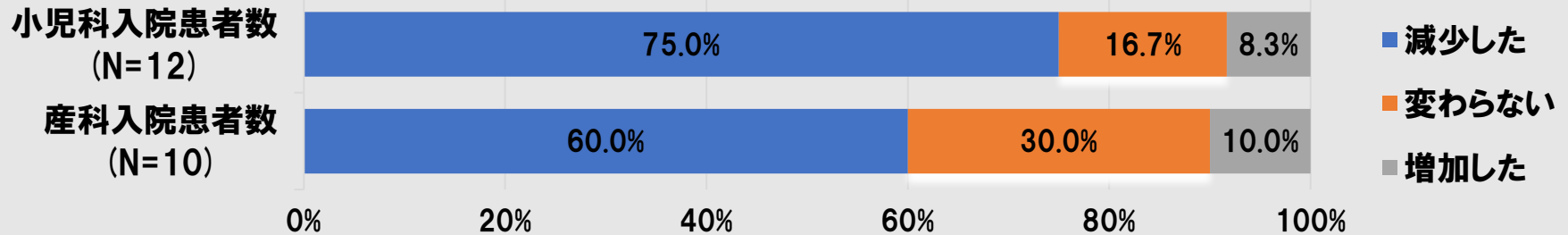
## 周産期母子医療センター(N=14)



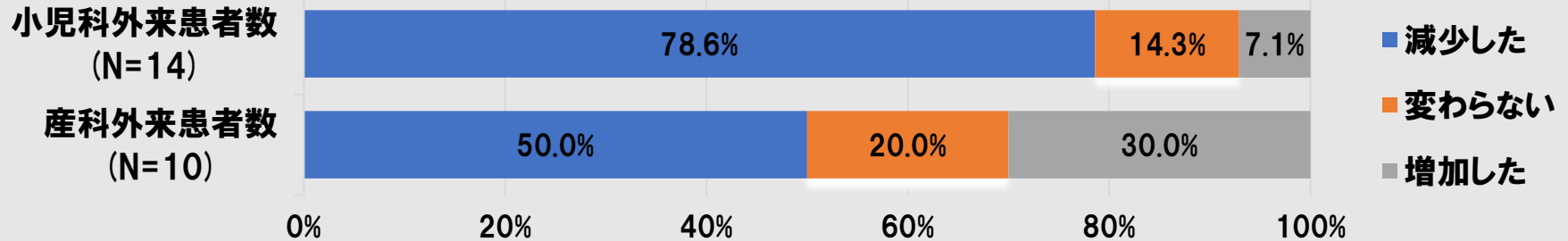
# 新型コロナウイルス感染症の影響

患者数、分娩件数、産科手術件数の減少した医療機関の割合が大きい  
産婦人科の方が影響は小さい可能性(外来は増加した医療機関もある)

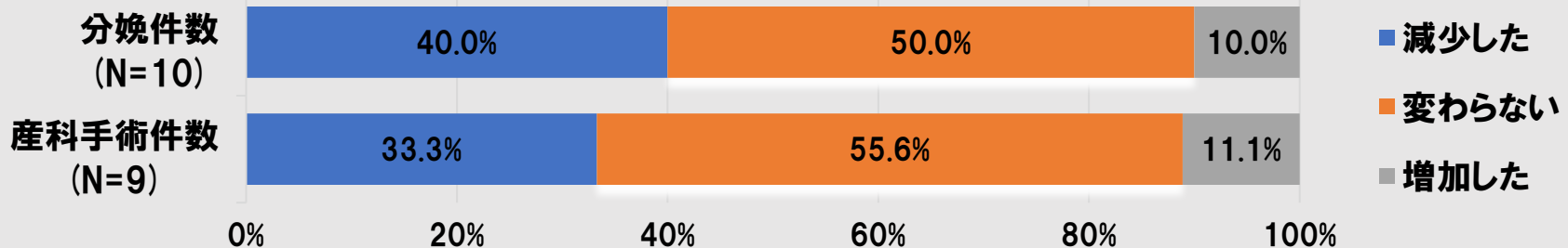
## 新型コロナウイルス感染症拡大前後の患者数の変化(入院)



## 新型コロナウイルス感染症拡大前後の患者数の変化(外来)



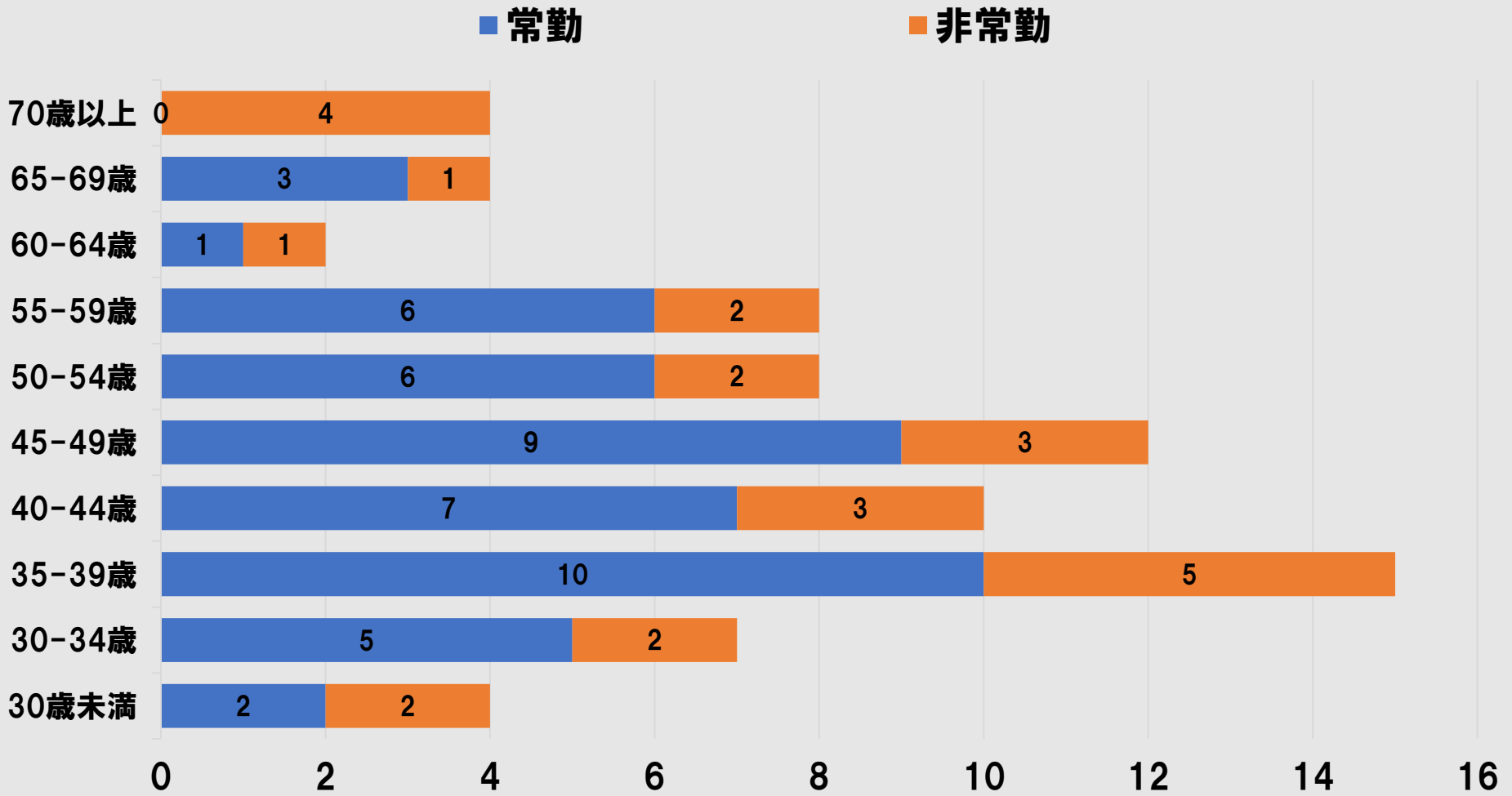
## 新型コロナウイルス感染症拡大前後の分娩数、手術件数の変化



# 勤務医師数(小児科、年齢別)

30代後半と40代後半にピークがある、65歳を超えても勤務を継続(非常勤含む)

回答医療機関(N=14)の小児科の勤務医師数の合計(年代別)



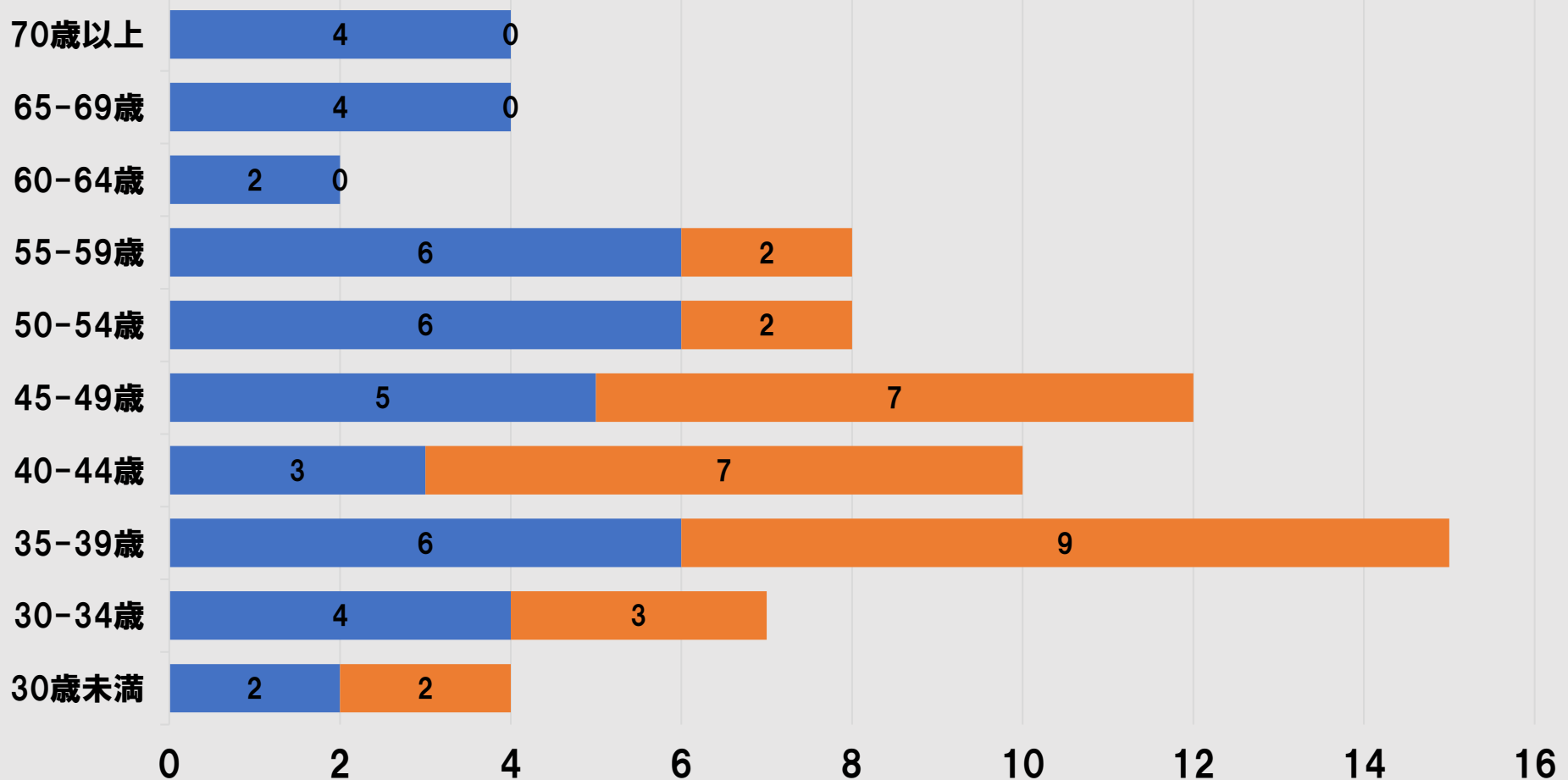
# 勤務医師数(小児科、男女別)

40代以下は女性の比率が高い、60代以降はすべて男性

回答医療機関(N=14)の小児科の勤務医師数の合計(年代別)

■ 男性

■ 女性



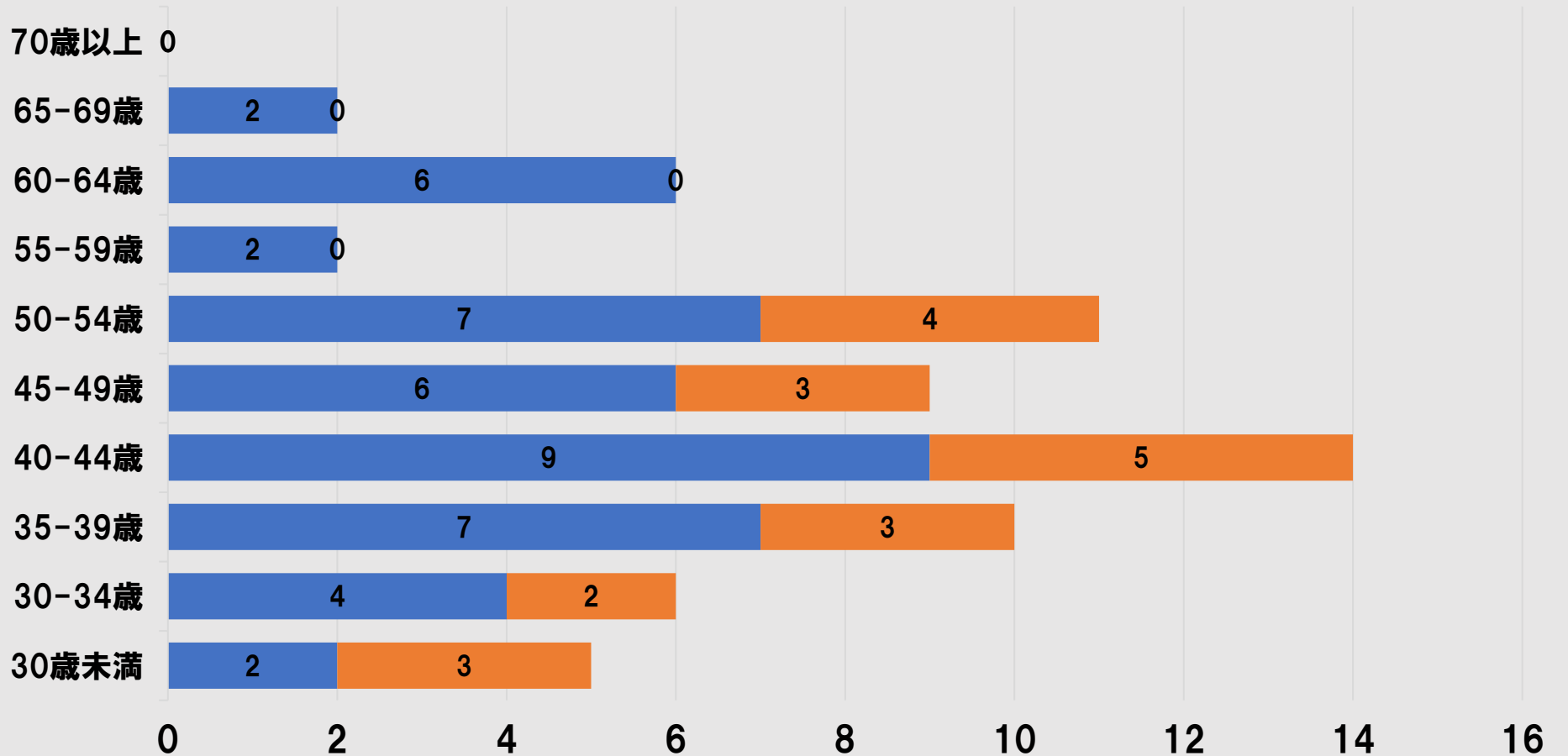
# 勤務医師数(産科、年齢別)

40代前半と50代前半にピークがある、60代前半も多い

回答医療機関(N=10)の産科の勤務医師数の合計(年代別)

■ 勤務医(常勤)

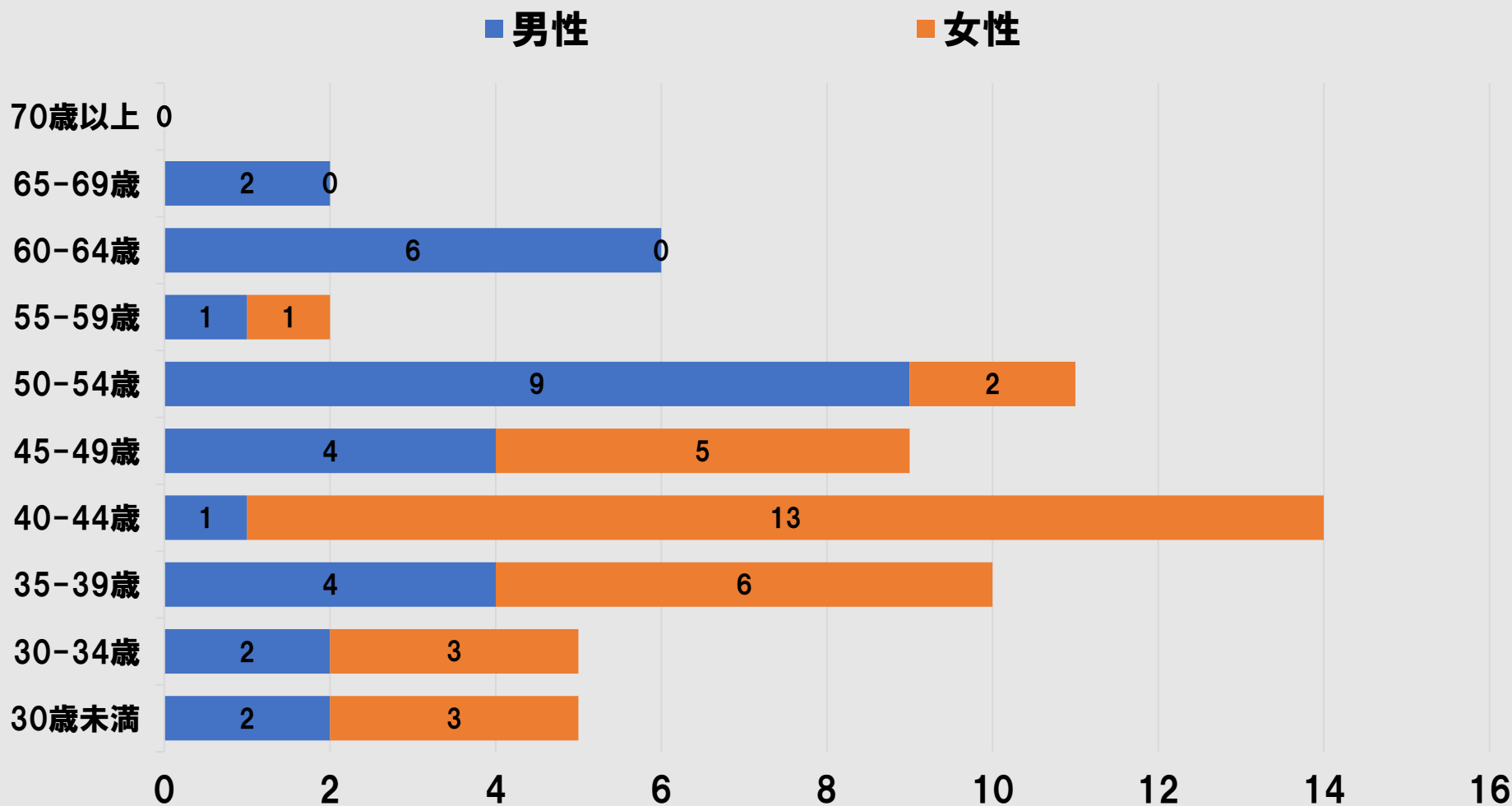
■ 勤務医(非常勤)



# 勤務医師数(産科、男女別)

40代以下は女性の比率が高い、60代以降はすべて男性

回答医療機関(N=10)の産科の医師数の合計(年代別)

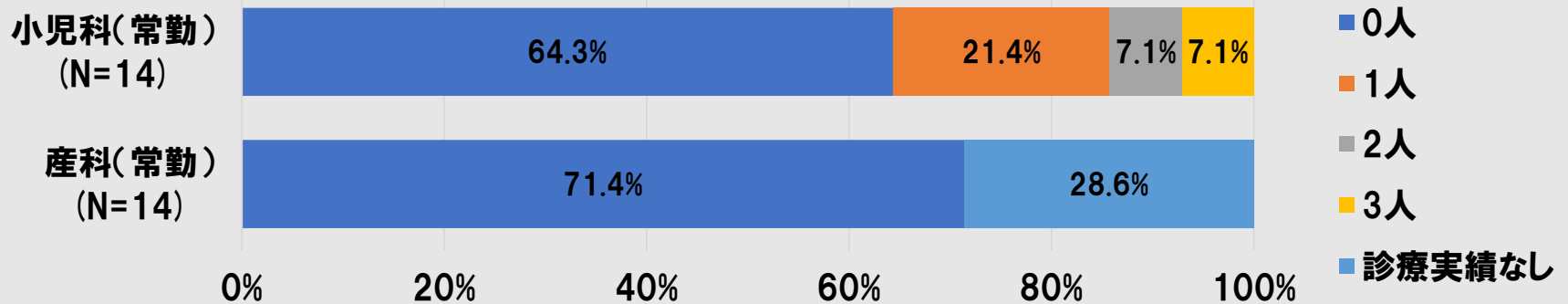




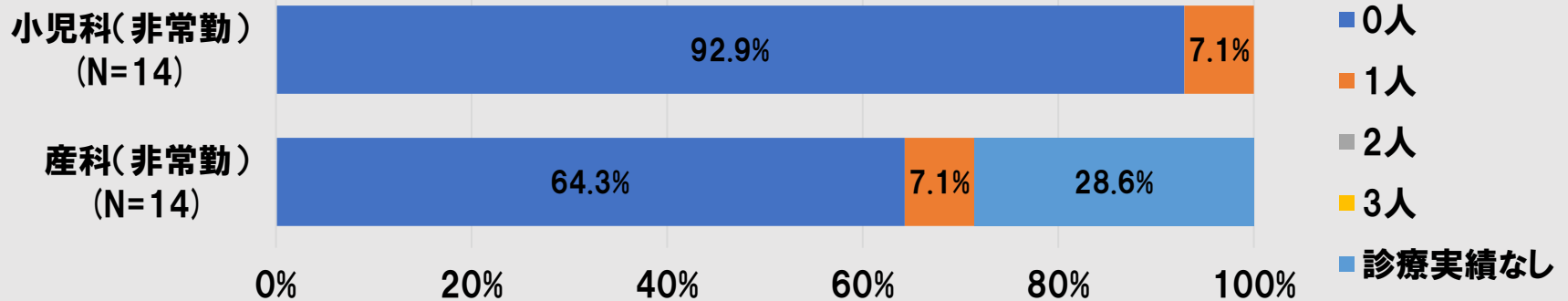
# 医療機関別の求人医師数

小児科(特に常勤)は求人があるが産婦人科はほとんどない(外科系のため?)  
ほとんどの医療機関は大学からの医師派遣により確保している可能性が高い

## 小児科と産科の求人医師数別の医療機関の割合(常勤)



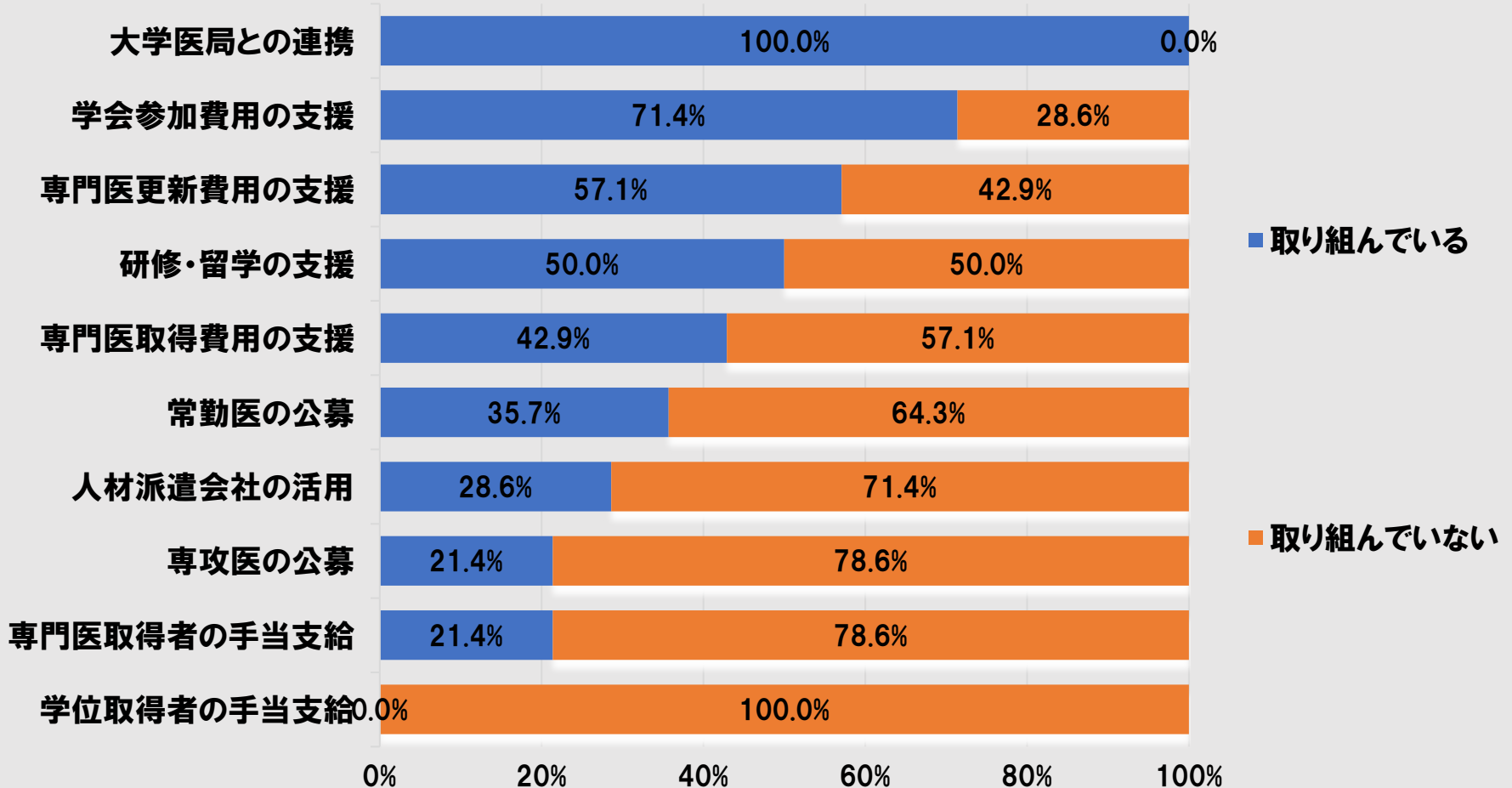
## 小児科と産科の求人医師数別の医療機関の割合(非常勤)



# 医師確保・定着支援の方法

大学医局との連携しての医師確保が中心で病院独自の確保(公募)は少ない

医師確保・定着支援の各取組みの実施割合(複数回答可、N=14)

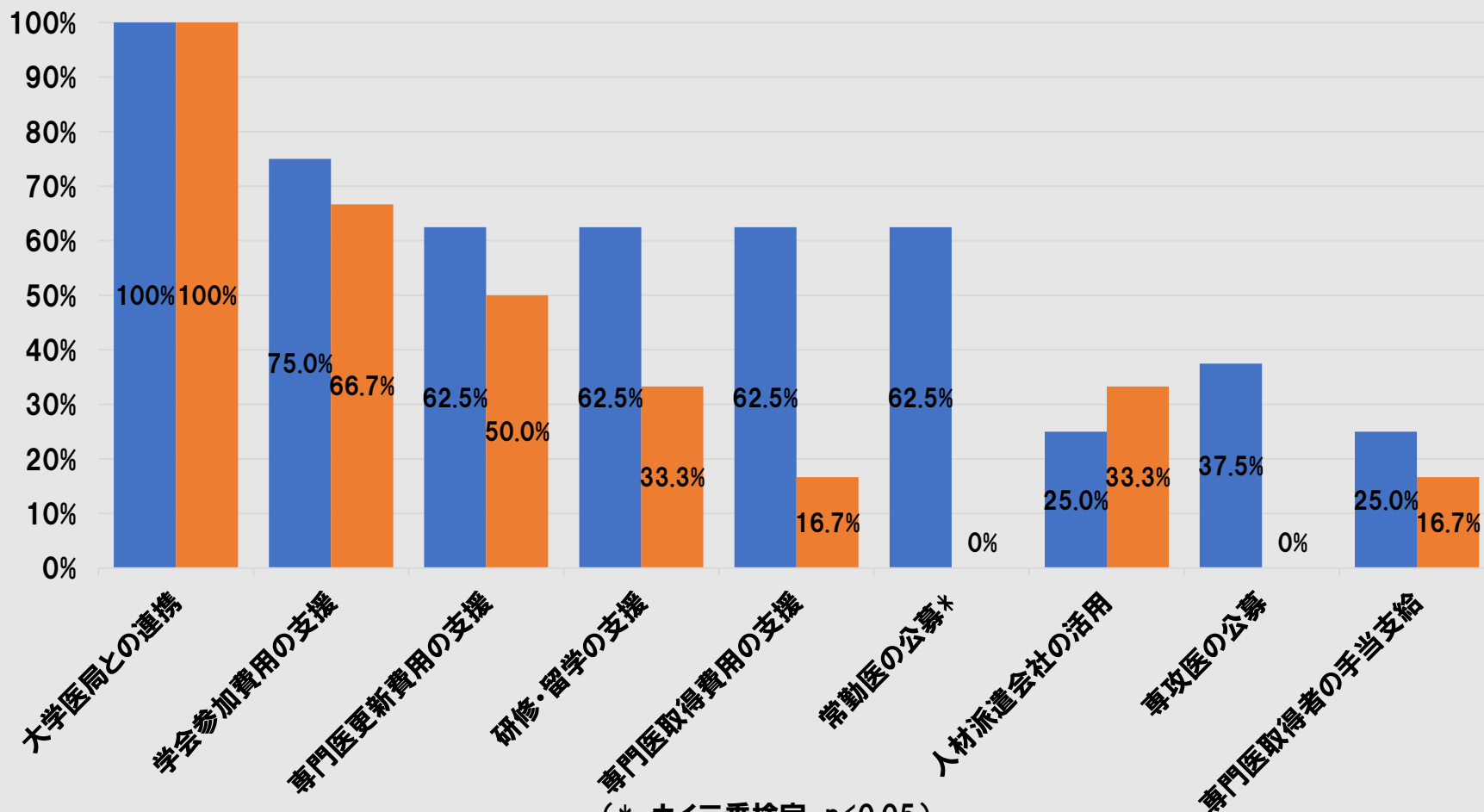


# 医師確保・定着支援の方法の違い(病床規模)

300床以上の医療機関の方が、常勤医の公募や、研修・留学支援、専門医取得支援に取り組んでいる割合が大きい(300床未満との比較)

医師確保・定着支援の各取り組みの実施割合(複数回答可、N=14)

■ 300床以上 ■ 300床未満

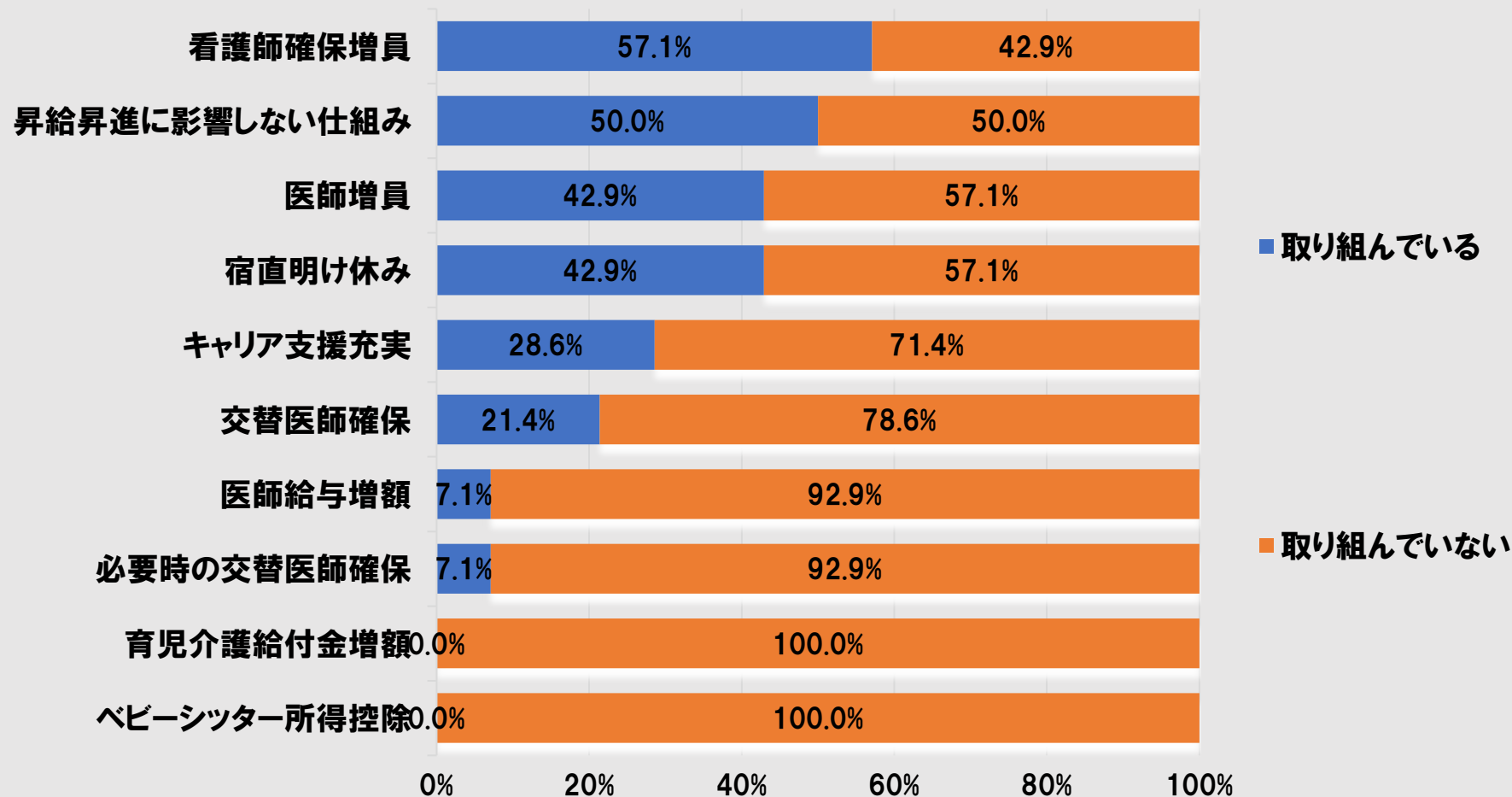


(\* カイ二乗検定、 $p < 0.05$ )

# 両立支援の取組み(小児科産科以外も含む)

看護師確保増員に取り組んでいる割合が最も大きい  
両立支援の各取組みを行っていない医療機関も多い

両立支援として取り組んでいると回答した割合(複数回答、N=14)

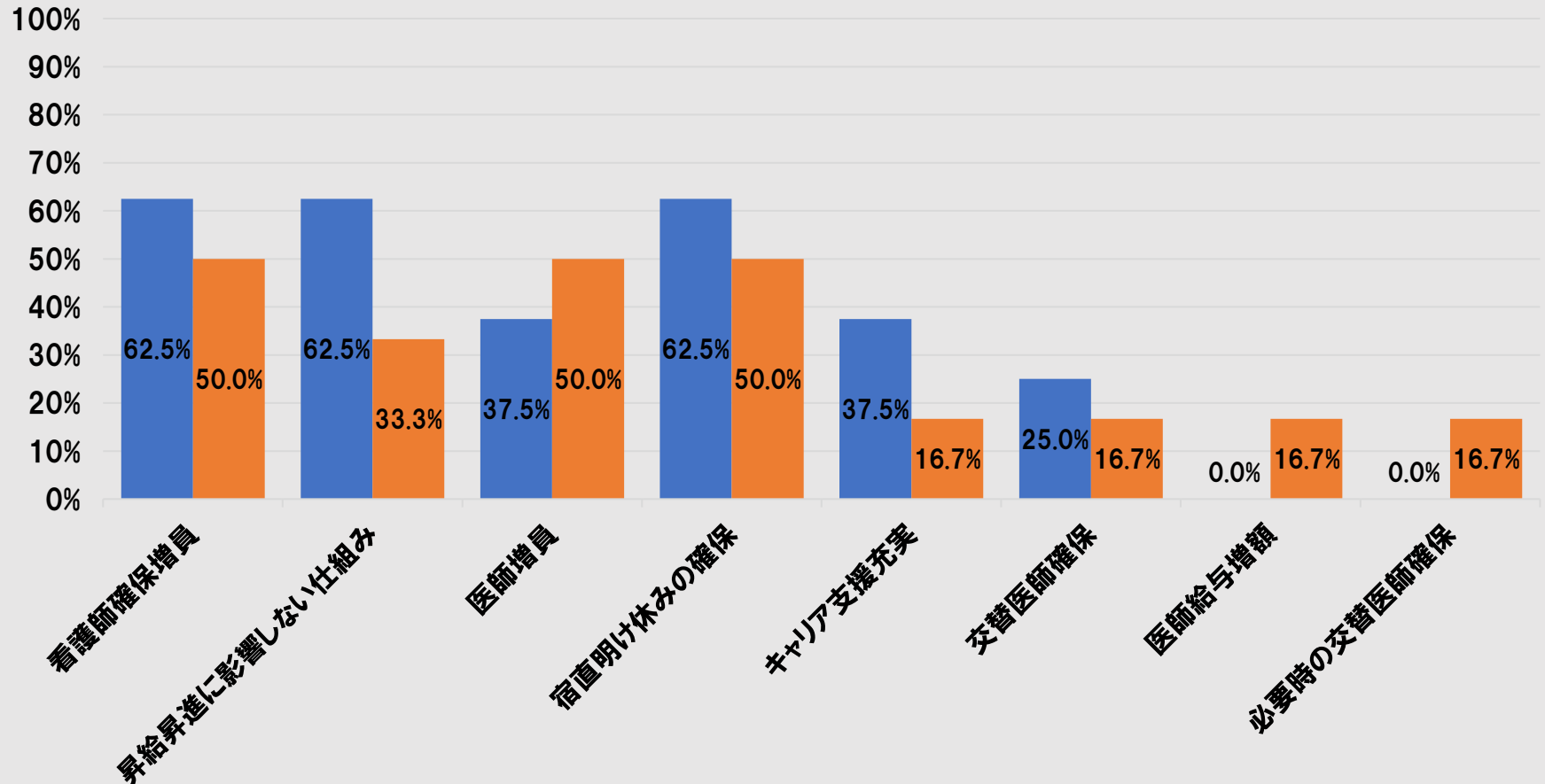


# 両立支援の取組みの違い（病床規模）

300床以上の医療機関では、短時間勤務等が昇給昇進に影響しない仕組みの整備やキャリア支援の充実に努めている割合が高い

医師確保・定着支援の各取組みに取り組んでいると回答した割合  
(複数回答可、N=14、徳島大学病院含む)

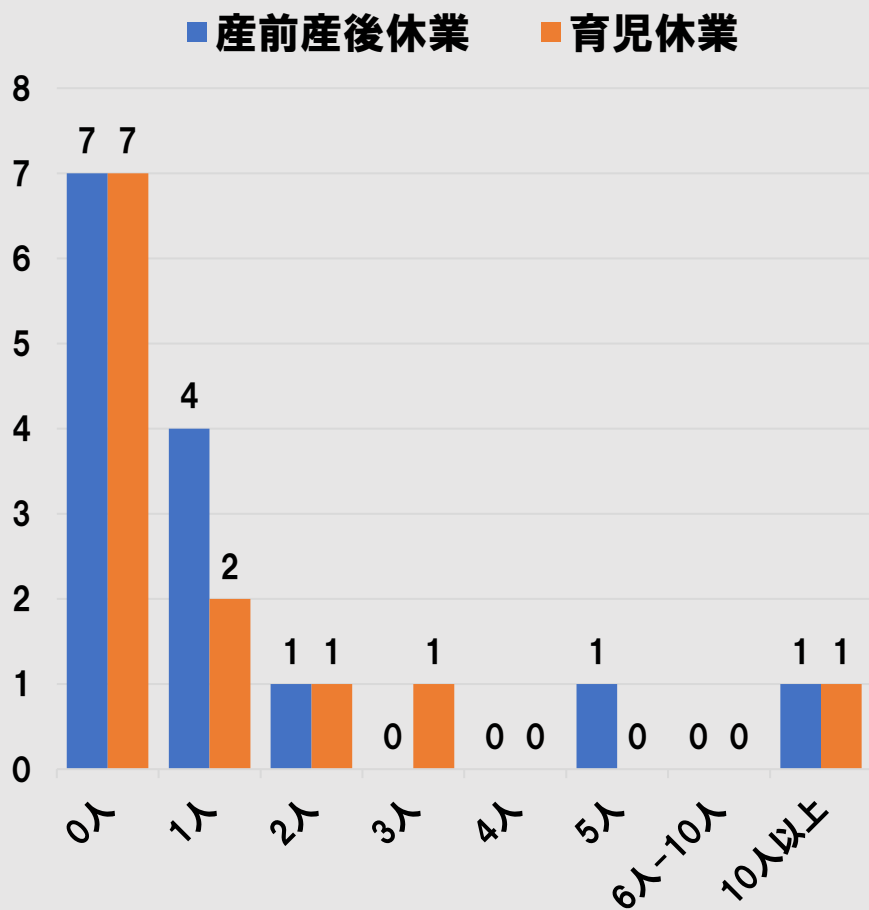
■ 300床以上 ■ 300床未満



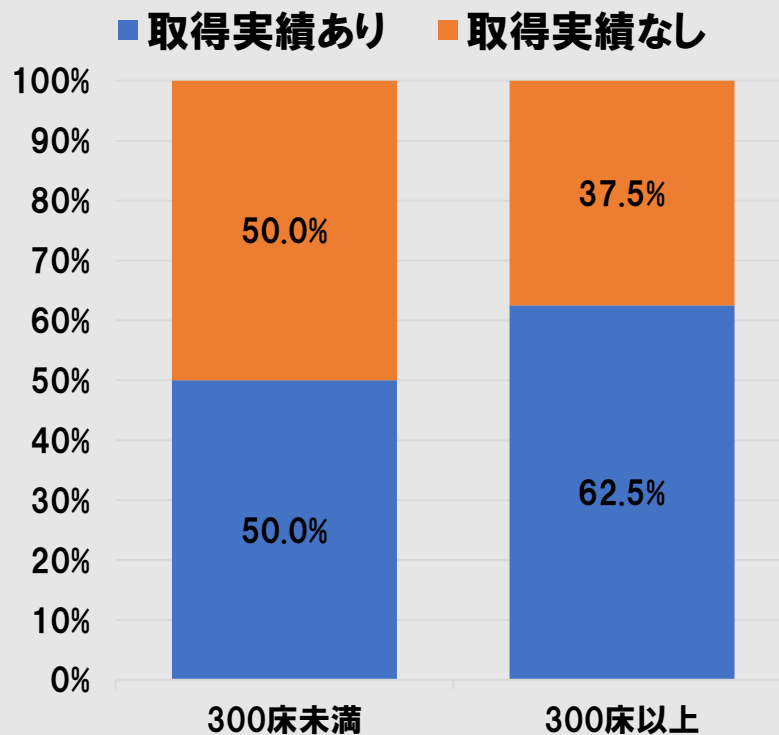
# 産前・産後休業、育児休業の取得(全診療科)

半数の医療機関で産前・産後休業、育児休業の取得の実績がある

産前・産後休業、育児休業の取得人数別医療機関数  
(令和2年10月から令和3年9月まで、N=14)



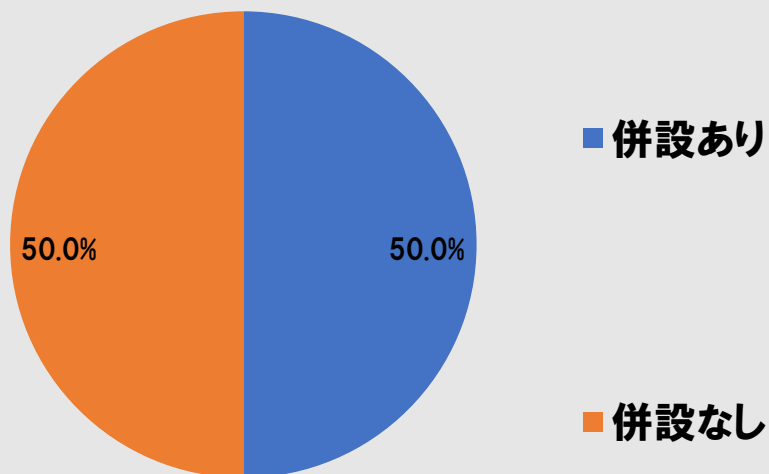
病床規模別取得実績 (N=14)



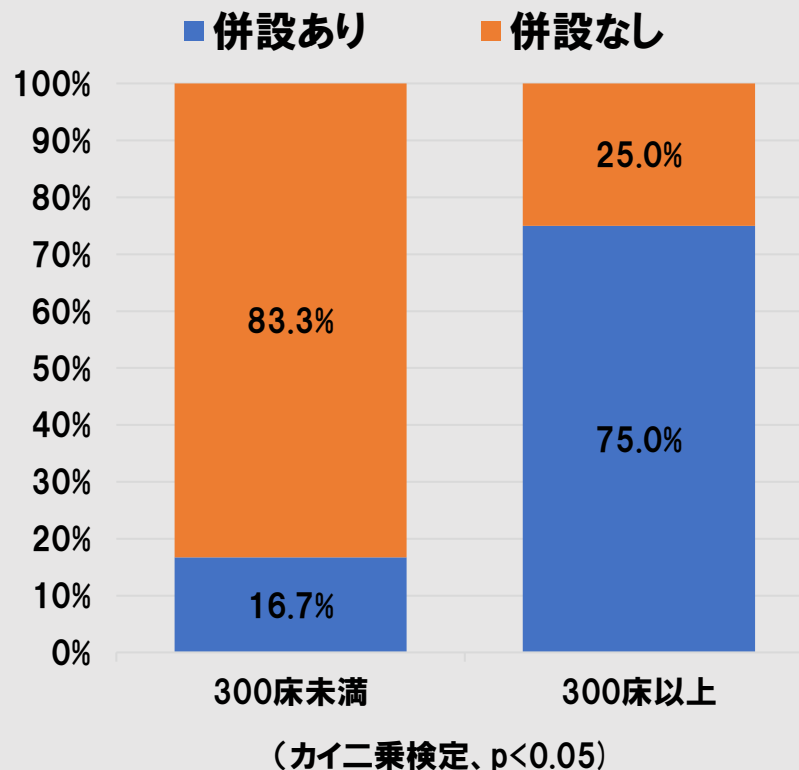
# 保育所・託児所の運営

300床以上の医療機関では保育所・託児所の設置が進んでいる

保育所・託児所の併設(N=14)



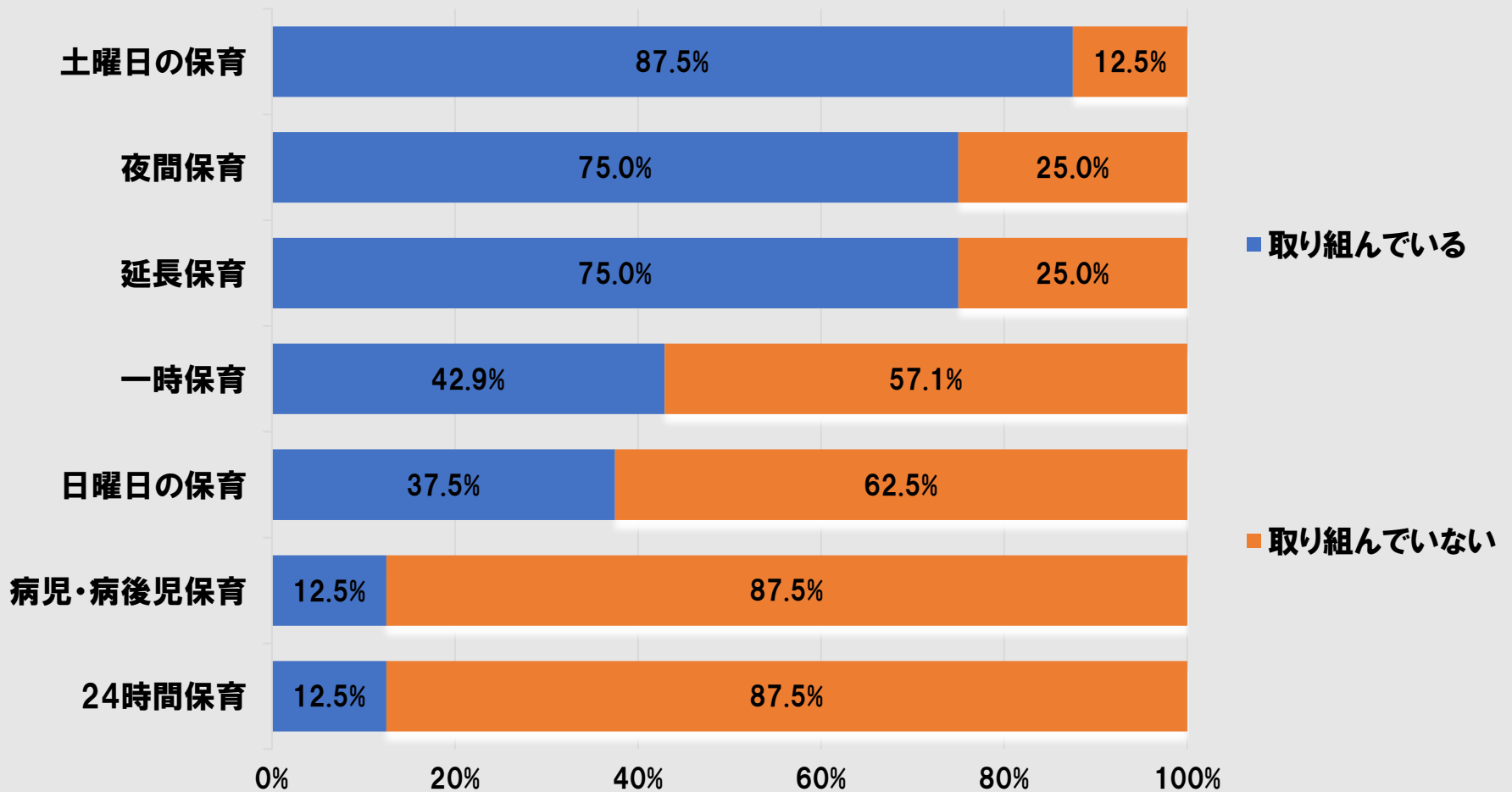
病床規模別 (N=14)



# 保育所・託児所の対応

土曜日、夜間の保育、延長保育に取り組んでいる保育所・託児所は多い

保育所・託児所の保育のうち対応可能と回答した割合(複数回答可、N=8)

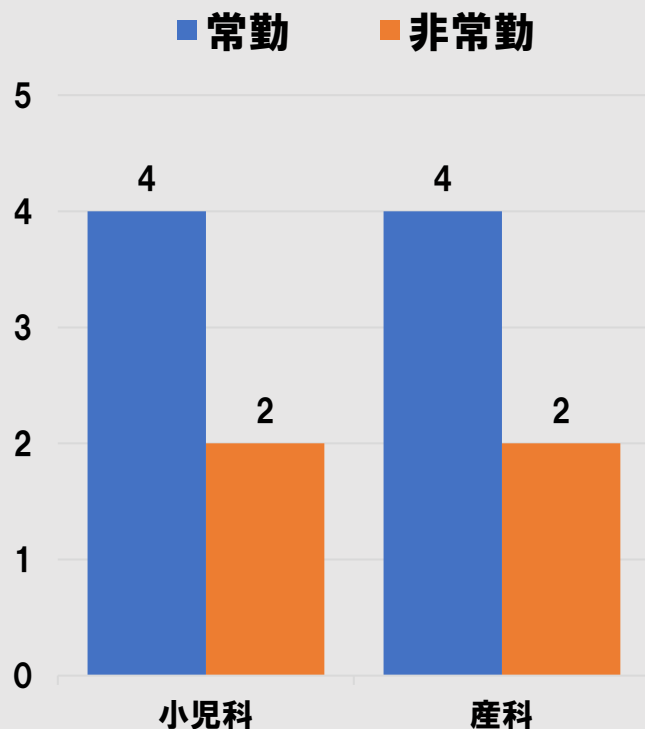




# 年間960時間超勤務医師数(小児科医・産科医)

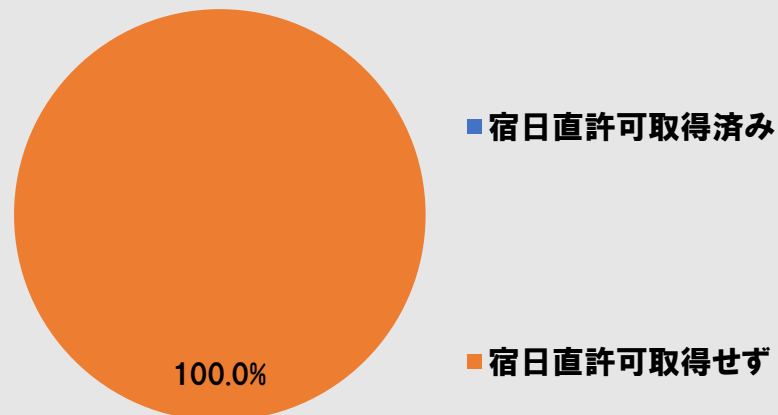
産科では宿日直許可を取得している医師が多い

年間960時間超勤務医師  
(医療機関(N=14)回答)

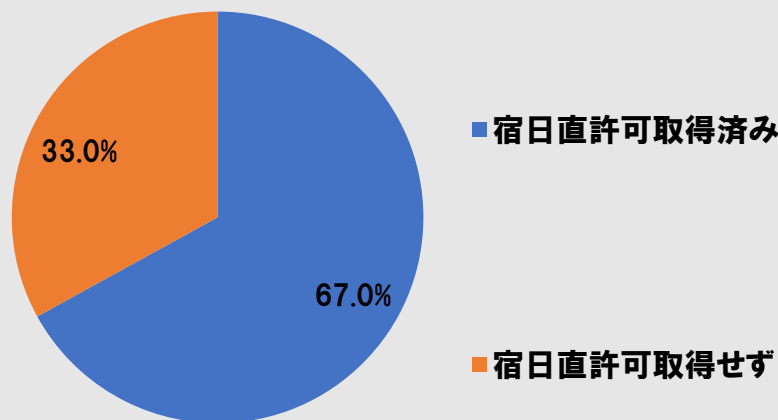


※ すべて徳島大学病院以外の勤務医師

年間960時間超勤務医師のうち  
宿日直許可取得医師の割合  
小児科(N=6)



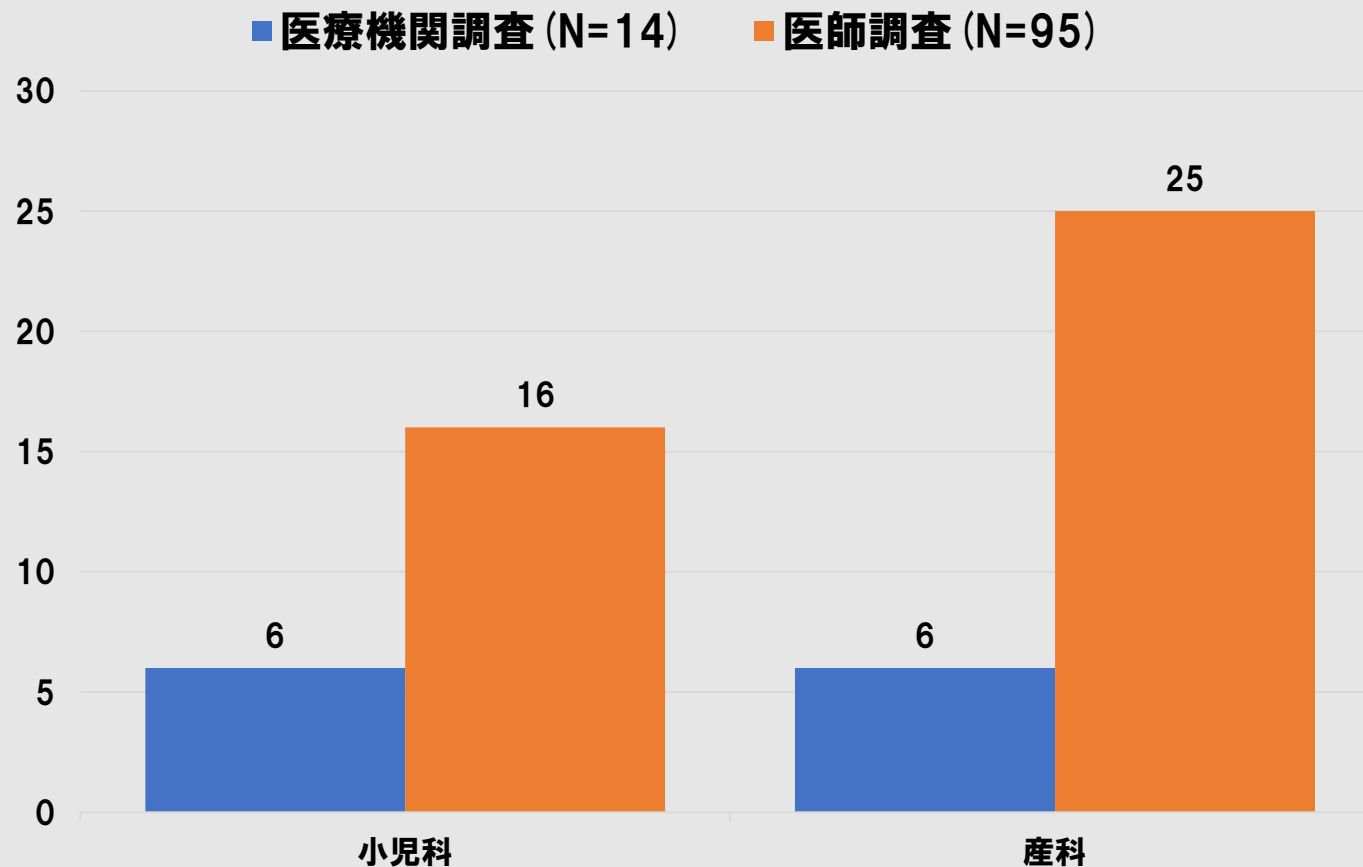
産科(N=6)



# 長時間勤務医師数(小児科医・産科医)

医療機関が把握している長時間勤務医師と医師の申告には乖離がある

年間960時間超勤務医師数(医療機関調査と医師調査の比較)



※ 医師調査は週平均60時間以上の勤務医師を年間960時間超勤務医師とした

# (参考)医師の時間外労働の上限(医療法改正)

## 地域医療等の確保

医療機関が医師の労働時間短縮計画案を作成

医療機関勤務環境評価センターが評価

都道府県知事が指定

医療機関が計画に基づく取組を実施

## 医師の健康確保

### 面接指導

健康状態を医師がチェック

### 休息時間の確保

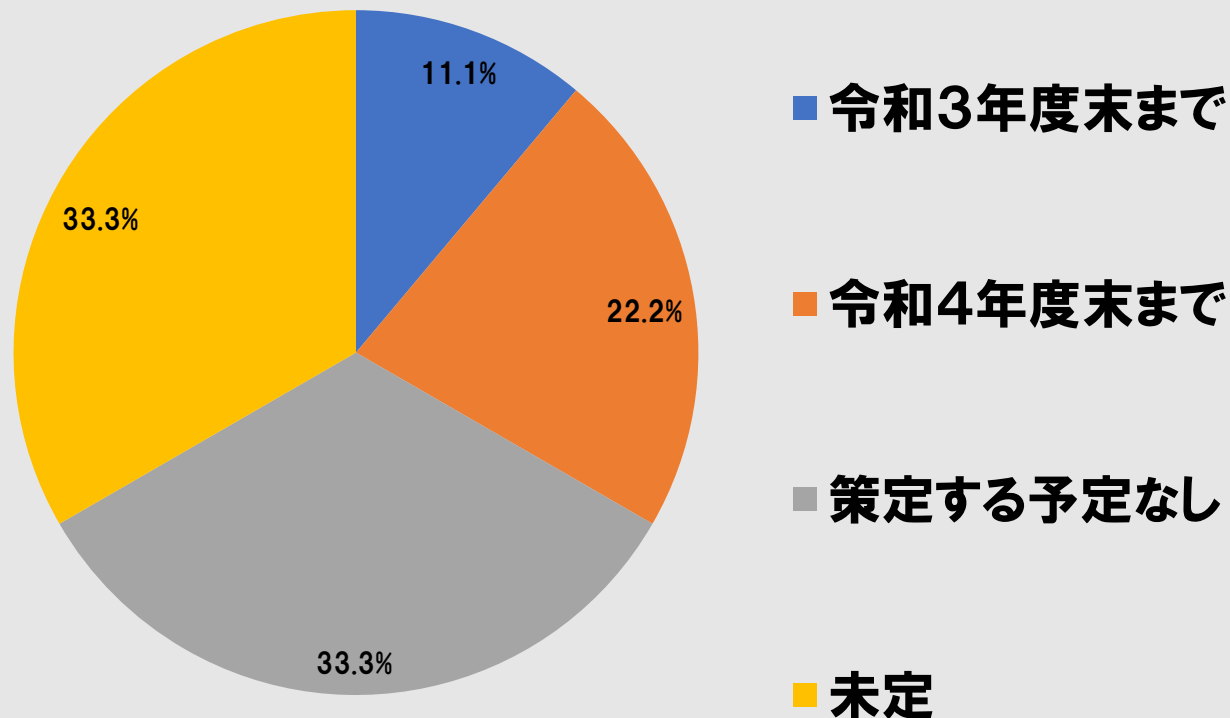
連続勤務時間制限と  
勤務間インターバル規制  
(または代償休息)

医療機関に適用する水準	年の上限時間	面接指導	休息時間の確保	
A (一般労働者と同程度)	<u>960時間</u>	義務	努力義務	
連携B(医師を派遣する病院)	<u>1,860時間</u> ※2035年度末を 目標に終了		義務	義務
B (救急医療等)				
C-1 (臨床・専門研修)	<u>1,860時間</u>			
C-2 (高度技能の修得研修)				

# 医師労働時間短縮計画の策定予定

3割強が令和4年度末までに計画を策定(予定を含む)

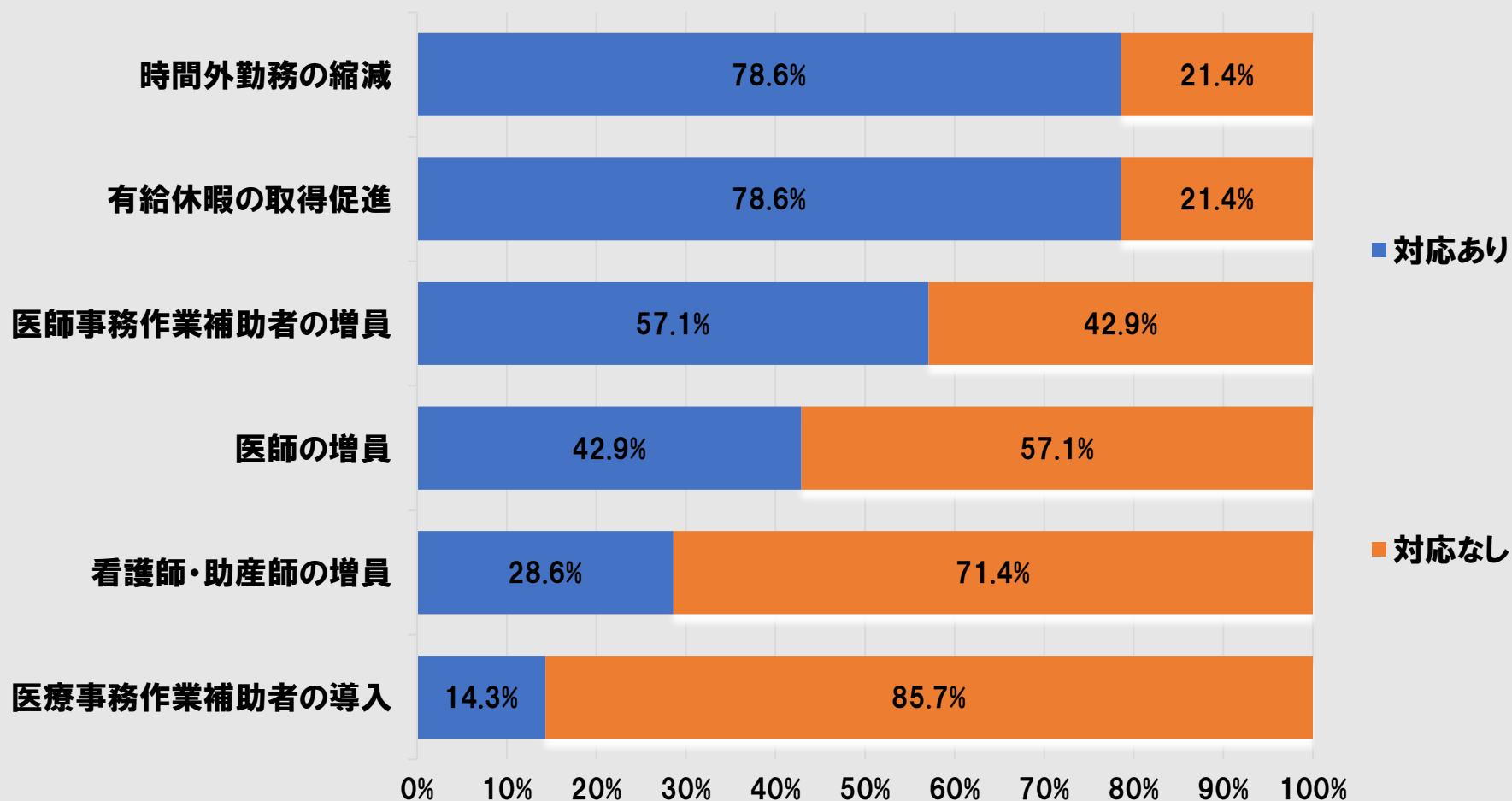
医師労働時間短縮計画の策定予定(N=9)



# 医師の時間外労働規制への対応

勤務時間の短縮が最も多く、ついで人員を増やす対応が多い

医師の時間外労働規制への対応(予定含む)(複数回答可、N=14)

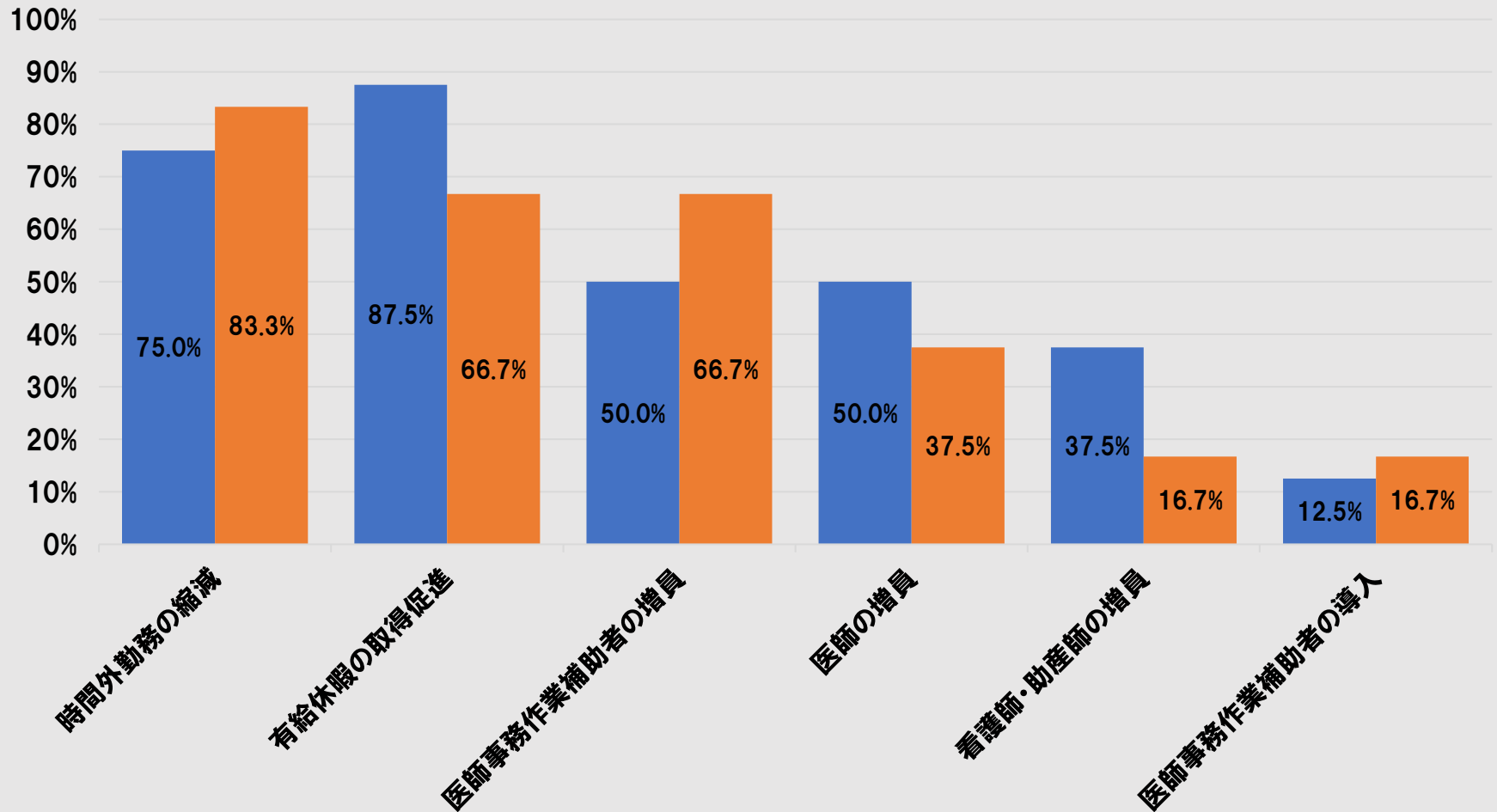


# 医師の時間外労働規制の対応の違い(病床規模)

300床以上の医療機関では、医師の有給休暇の取得促進と医師、看護師等の増員を予定している割合が高い(300床未満との比較)

医師の時間外労働規制への対応の各取組みの違い(複数回答可、N=14)

■ 300床以上 ■ 300床未満



# 対応が必要と考えられる事項(小児科・産科)

コロナの影響が継続しているか見極める必要

医師の正確な勤務時間を把握する必要

大学の対応が徳島県全域の医師確保の取組みに影響を及ぼす可能性がある

小児科・産科へのリクルートの強化が必要

中小規模病院(300床未満)の医師のキャリア支援、子育て支援の充実が必要

# 今後の予定

**医師調査票と医療機関調査票を連結させて解析**

**徳島県KDBデータから、小児科、産科のレセプトを抽出して解析**

**全国の先進的な取組み(例:産科の勤務体制見直し)について情報収集を行うことを検討中**

**調査へのご協力ありがとうございました。  
引き続きご支援のほどよろしくお願い申し上げます。**